

# 迅速・安全・的確 消防活動の基本技術を競う

7月3日(日)、夏の日差しが照りつける中、日野川ダムグラウンドにて「第31回日野町消防団ポンプ操法訓練大会」が開催されました。

この大会は、消防技術の向上と消防団員の士気の高揚を目的に毎年この時期に開催され、迅速、安全、的確に消防活動を行うため、消防ポンプなどを扱う技術を競い合います。

消防団員の皆さんは、優勝を目指し約1か月間、早朝訓練に励んでこられました。本番では、チーム全員が心をひとつにして訓練の成果を発揮し、見事なポンプ操法を披露されました。出場されたどのチームも操法終了後はやり遂げた満足感、充実感でいっぱいの様子でした。



この大会を通して得た操法技術と団員同士の団結は今後地域の防災活動に活かされることでしょう。

なお、結果は下記のとおりです。優勝チームの皆さん、おめでとうございます。また出場された消防団員の皆さん、お疲れさまでした。



小型ポンプの部 優勝 第1分団A  
写真左から 市川岳雄さん、森田一平さん、北岡芳和さん、松尾憲一さん



ポンプ車の部 優勝 第1分団西大路  
写真左から 松川泰裕さん、牧野和也さん、大塚博文さん、澤村久人さん、北尾正典さん

## 感雑向綿

日野町長 藤澤直広

青い空に向かつて、ひまわりが背伸びし、アサガオの花に朝露が光る真夏の風景。今年は、窓辺に緑の葉を広げるゴーヤもよく見かけます。

ゴーヤの緑のカーテンは、強い日差しを防いでくれます。「節電」が呼びかけられ、役場や勤労福祉会館、公民館でも育てています。子どもの頃、家庭に「氷」はありませんでした。冷たいものといえば、井戸水で薄めた濃縮ジュース、井戸水で冷やしたスイカやマクワは好物でした。冷蔵庫も扇風機もなく、農家は朝早くから仕事をし、日中の暑い時間帯は昼寝、目が覚めればスイカを食べ、日差しが和らいだ頃、また仕事をします。そんな時間が流れていました。

当時の「三種の神器」といえば、冷蔵庫、洗濯機、テレビ。次第に便利な電化製品が普及し、電力を供給するため水力発電ダムが建設されました。通称「黒四ダム」の工事は、立山連峰を貫く工費用ト

ンネルなど難工事でした。それを映画化した「黒部の太陽」が大ヒットしました。今では、黒部立山アルペンルートは美しい観光ルートです。

原子力発電は茨城県東海村で実験炉での発電が昭和38年に始まり、増え続け現在55基あります。そして、地球温暖化対策が課題になる中で、原発は「地球環境にやさしいエネルギー」といわれてきました。しかし、今、放射能被害は深刻化し、原発は事故が起これば手の施しようがないこと、放射性廃棄物の処理技術が確立していないこと、廃炉にするにも何十年もかかることなど、「安全神話」が確実に崩壊しました。こうしたことは、これまでから指摘されてきましたが、「非現実的」と無視され、莫大な予算が、原発の開発や推進に使われてきました。これらの予算を自然再生エネルギーの開発、普及へとときりかえ、真に環境にやさしいエネルギーへの転換が必要です。

夕涼み、団扇、ビール、団欒、生活スタイルも人にやさしいものに変えてゆきたいですね。